



る う て る

2013年
5月
No.792

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■発行口座 ■00190-7-71734
■ウェブサイト ■http://www.jelc.or.jp
■E-mail ■jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■徳野自博 makuno@jelc.or.jp
■印刷 ■博文堂印刷株式会社
■定価 ■1部 40円 (郵税を含む)

説教

「祝福しながら彼らを離れ…」

日本福音ルーテル神戸東教会 乾和雄

「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内において、神をほめたたえていた。」ルカによる福音書一四章五十一〜五三節

与えられました。聖書の箇所は、ルカによる福音書の最後のところ。イエスさまが復活の四十日の間弟子たちに現われてくださり、神の国について教え、そのうち彼らを離れて天に上げられ、栄光の座につかれました。今日はその天に上げられたときのみ言葉を皆さまと共に聴きたいと思えます。

以前に親しんでおられた口語訳聖書と比べてみますと、いくらか違つたところがございます。例えば51節の「天にあげられた」のところや、52節の「イエスを伏し拝んだ」のところが、口語訳では「かつこ」に入つていたことを記憶の方もおられると思ひます。なぜなら、伝えられている有力な写本の中に、これらの言葉があるものと、無いものがあつたからなので

に、より古い、より原本に近い写本が見つかったのです。この聖書の箇所もその「パピルス75」の発見によつて、より原本に近い内容が分かるようになった所です。今私たちが用いております新共同訳聖書にはその成果が反映されています。

初代教会の頃、ローマ帝国の迫害はそれはそれは厳しいものでした。聖書が見つかれば直ちに焼却されました。ですから、新約聖書の原本はむろんのこと、ごく初期の聖書の写本もほとんどが失われてしまつていゝのです。しかし当時のキリスト者たちは、洞窟や地下などの暗い部屋の中で、小さな灯をたよりに聖書を書き写しました。その一つが「パピルス75」なのです。

筆舌に及ばず、難しいほどの厳しい迫害の中で、当時のキリスト者たちの宣教のエネルギーはいったいどこから与えられたものでしょうか。その原点とも言うべき聖書箇所の一つが、いま私たちに与えられているみ言葉ではないでしょうか。「彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内において、神をほめたたえていた」と書かれています。

復活の主は、弟子たちをベタニアの辺りまで連れて行かれます。50節には「彼ら」と書かれています。が、男性の弟子たちだけでなく、ガリラヤから主につき従つてきた女性の弟子たちもいたことでしょう。主は両手を上げて、弟子たちを祝福してくださいました。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられて行かれました。何と感動的な場面が描かれていることでしょうか。

すこし前、十字架の出来事のおりに、男の弟子たちはイエスさまをおいて逃げ去りました。何か失いたくないものがあつたのでしよう。そしてユダヤ人たちの恐れ、隠れていました。しかしながら、そんな彼らのもとに復活のイエスさまの方から近づいて来て下さいました。み言葉を通して弟子たちの心の目を開き、さらに「あなたがたに平和があるように」と弟子たちを祝福して下さいました。罪赦され、救いと祝福が与えられた喜びに、弟子たちは心から満たされておりました。



主が祝福してくださいませ。そして弟子たちがほめたたえる。原文では、実はどちらも同じ言葉なのです。天からの祝福と地からの讃美が響き合います。「祝福しながら…」と書かれています。これは「ずっと祝福しつづけるがら」という意味です。復活の主はいかなる時も、いつも私たちと共にいて下さいませ。主はいつも私たちを祝福して下さいませ。パウロはそのような幸いを、「生きていますのは、もはやわたしではありませぬ。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ二章二十)と表現しました。

第15回 ルーテルこどもキャンプ

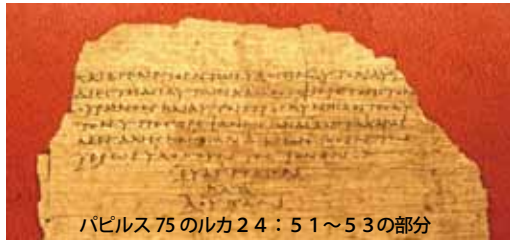
2013年8月7日～9日

会場：ルーテル学院大学

テーマ：「アサンテ！アサンテ！」～タンザニアの心って？～

聖句：「いかに幸いなことか 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。」詩篇1篇1-2節

詳細は次号で



パピルス75のルカ24：51～53の部分

主なる神さまは、時にまことに驚くべきことをなさいませ。二十世紀も半ばになって、エジプトの中央部の砂漠の町パバウの近くで、新約聖書のパピルス断片が見つかりました。「パピルス75」と名付けられたその断片は、炭素14による年代測定で、およそ西暦二百年頃のものとなり、当時のキリスト者たちの宣教のエネルギーはいったいどこから与えられたの

すこし前、十字架の出来事のおりに、男の弟子たちはイエスさまをおいて逃げ去りました。何か失いたくないものがあつたのでしよう。そしてユダヤ人たちの恐れ、隠れていました。しかしながら、そんな彼らのもとに復活のイエスさまの方から近づいて来て下さいました。み言葉を通して弟子たちの心の目を開き、さらに「あなたがたに平和があるように」と弟子たちを祝福して下さいました。罪赦され、救いと祝福が与えられた喜びに、弟子たちは心から満たされておりました。

主が祝福してくださいませ。そして弟子たちがほめたたえる。原文では、実はどちらも同じ言葉なのです。天からの祝福と地からの讃美が響き合います。「祝福しながら…」と書かれています。これは「ずっと祝福しつづけるがら」という意味です。復活の主はいかなる時も、いつも私たちと共にいて下さいませ。主はいつも私たちを祝福して下さいませ。パウロはそのような幸いを、「生きていますのは、もはやわたしではありませぬ。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ二章二十)と表現しました。

すこし前、十字架の出来事のおりに、男の弟子たちはイエスさまをおいて逃げ去りました。何か失いたくないものがあつたのでしよう。そしてユダヤ人たちの恐れ、隠れていました。しかしながら、そんな彼らのもとに復活のイエスさまの方から近づいて来て下さいました。み言葉を通して弟子たちの心の目を開き、さらに「あなたがたに平和があるように」と弟子たちを祝福して下さいました。罪赦され、救いと祝福が与えられた喜びに、弟子たちは心から満たされておりました。

リラ・プレカリア (祈りのたて琴) 2013年度 公開講座 (5月以降)

5月16日 「スピリチュアルケアとは何か -人間のいのちの本質-」 窪寺俊之

5月23日 「日本人の死生観」 石居基夫

5月30日 「在宅ホスピス医の考えるスピリチュアルケアとそのケア」 山崎章郎

6月6日 「音楽を介したスピリチュアル・サポート-11世紀クリュニ-修道院のライフスタイルから学ぶ」 里村生英

6月13日 「旧約聖書の嘆きに学ぶ」 左近豊

恵比寿ジェラ・ミッションセンター1階
午前10時30分～12時
入場料：1,000円

主催：日本福音ルーテル社団 (JELA)
TEL:03-3447-1521 E-mail: jela@jela.or.jp
HP: http://www.jela.or.jp/

宗教学者五〇周年に向けて ルターの意義を改めて考える(13)

ルター研究所所長 鈴木浩

罪の話を続けよう。史上、罪の問題を非常に真剣に考えた三人の人を挙げる。とすれば、パウロ、アウグスチヌス、ルターとなる。

中でもアウグスチヌスは晩年、「原罪論」と呼ばれる教理を明確に主張し、「人間は罪を犯す音酷な必然性のもとに立っている」とか「罪を犯さないことはできない」といった過激な発言をした。

そこで中世後期の神学者たちは、罪について語る際、アウグスチヌスには誇張があると言つて、彼の罪の問題を真剣に受け止めること、それが義認の出発点だ。義認とは、端的に、「無代償の罪の赦し」のことだからである。

信徒の声

「泣きながら夜を過ごす人にも、喜びの歌と共に朝を」

長野教会 青木長栄

わたしは、毎日、夜休む前に祈ります。朝に祈るという人も多いようですが、わたしの場合はどうも落ち着きません。

老人憩いの家などに、鍼灸マッサージの仕事に行っていますが、その日一日を思いだしながら、夜に祈るのです。

しかし、自分自身うまくいかない時の祈りは、自分中心の祈りになってしまっています。週報に記されています「祈りの課題」も見たことがあります。そんな時は、信仰生活そのものが、だたため、どうにもならない気がします。

私の妻は「脳卒中」で、半身がマヒしていて、施設に入っています。ですから、私は、今は一人暮らしをしています。妻が病気になる前は、十一年前の二〇〇二年（平成十四年）の十月のことでした。

妻を施設に入れる時、キリスト教関係の施設などを紹介してくれる方もおり、ありがたいことでしたが、妻の家族の勧めもあって、最終的には、長野県南佐久郡にある指定障害者支援施設「佐久療護園」に入っています。その日は、自分自身も施設見学に行かなければならなかったために、妻のことは妻の両親に任せて、出かけることになりました。

その年の十二月、牧師の中村圭助先生によって、長野教会で、長野県の視覚障害者のクリスマス会をしていただきました。

中村先生のほかに、長野教会に来られたほとんどの牧師先生によって、視覚障害者の礼拝をしてもらっています。勝部哲先生や、平岡正幸先生や、武村協先生、そして、宣教師のバーク先生のことを思い出します。ある時は、飯綱高原にある「ペンション一の鳥居」で、例会をすることもあり、楽しい思い出



しかし、自分のことに戻りますが、家族伝道が十分にできていないことを、不甲斐なく思っています。

青木長栄さんは、日本盲人キリスト教協会の一員で、長野県視覚障害者キリスト教会の総務をしておられます。編集者



春の「礼拝と音楽セミナー」

～チャント学んで、チャント歌う～

4月13日（土）の午後、日本福音ルーテル東京教会の礼拝堂で、東教区主催、教育部担当の「礼拝と音楽セミナー」が開催されました。今回のセミナーのテーマは「チャント」で、講義と実地指導は、青山学院大学教授の那須輝彦先生でした。

今回は、6月8日の「教会音楽祭」に向けての合同聖歌隊の旗揚げ練習がセミナーの後、組まれており、ルーテル学院大学、青山学院大学の聖歌隊の学生さんや、聖公会に属する教会で結成されている合同聖歌隊の方々が多

今回は、6月8日の「教会音楽祭」に向けての合同聖歌隊の旗揚げ練習がセミナーの後、組まれており、ルーテル学院大学、青山学院大学の聖歌隊の学生さんや、聖公会に属する教会で結成されている合同聖歌隊の方々が多

聖公会の音楽とは言え、私たちがルーテル教会の式文にもチャントは用いられています。グロリアやミサがそうです。その長さは一定ではありません。そこで、各節の長さに合わせて単一和音で伸縮自在に歌い唱える部分「朗唱部」と、和音を動かして節の区切りをつくる部分があり、これがチャ

講師の先生は、「英国人はメロディやリズムよりも何よりも、ハーモニーを愛する国民で、イギリスは合唱王国です」と教えてくださいました。そうであればこそ、聖歌隊が歌い、会衆は耳を傾けて聞く、そういう礼拝音楽の文化が育まれているのかもしれない。

徳野昌博

JLERR(ルーテル教会救援) 対策本部 現地からのレポート

JLERR派遣牧師 野口勝彦

「となりびと」では、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震等へ対応するため、今回の震災救援・支援活動を生かした防災・減災教育プログラムを行っています。3月には、ルーテル学院大学と聖望学園高校ハイスクールのYMCA部の学生が、このプログラムを体験されました。（プログラムの様子は「となりびとブログ」をご覧ください）

今月号では今回の震災を体験し、ルーテル教会救援等への支援先情報の提供や、震災支援のボランティア・コーディネート活動もされている地元の方から、災害発生に対する備えについてアドバイスをいただきましたので、ご紹介いたします。

【1、避難場所の確認】
町内には小高い所に避難場所が指定されています。災害はいつも自宅にいるときに起るとは限らないのでいざ災害が発生したら自分

【2、防災バックの備え】
避難時に携帯する物として、懐中電灯・手袋・携帯用の飲料水・乾パンなどをいれて用意しています。

【3、近所の要支援者への避難体制づくり】
「津波でんでん」といってもそれができない高齢者や体の不自由な人たちが町内としてどのように支えあうのか今後の課題です。

編集者註
「津波でんでん」とは、「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自でんでんばらばらに一人で高台へ逃げろ」という意味です。

左から3人目が齋藤みや子さん



我が家は、石巻市中央の北上川が太平洋に注ぐ河口から3km上流の所にあります。震災のとき町内は約2mの津波に襲われました。震災当日、大津波警報が出されて近くの避難所に避難するよう声がけされましたが96歳の父は歩けず、道路向かいの妹一家には、寝たきりの母親がいるので、妹一家二階に私たちが家族は避難しました。幸い避難先は倒壊などの大きな被害はなく無事でしたがこの判断が適切であったのか考えさせられました。

あの震災を体験し今後の災害に対する備えとして次のように考えています。

【1、避難場所の確認】
町内には小高い所に避難場所が指定されています。災害はいつも自宅にいるときに起るとは限らないのでいざ災害が発生したら自分

「となりびと」では、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震等へ対応するため、今回の震災救援・支援活動を生かした防災・減災教育プログラムを行っています。3月には、ルーテル学院大学と聖望学園高校ハイスクールのYMCA部の学生が、このプログラムを体験されました。（プログラムの様子は「となりびとブログ」をご覧ください）

今月号では今回の震災を体験し、ルーテル教会救援等への支援先情報の提供や、震災支援のボランティア・コーディネート活動もされている地元の方から、災害発生に対する備えについてアドバイスをいただきましたので、ご紹介いたします。

【1、避難場所の確認】
町内には小高い所に避難場所が指定されています。災害はいつも自宅にいるときに起るとは限らないのでいざ災害が発生したら自分

【2、防災バックの備え】
避難時に携帯する物として、懐中電灯・手袋・携帯用の飲料水・乾パンなどをいれて用意しています。

【3、近所の要支援者への避難体制づくり】
「津波でんでん」といってもそれができない高齢者や体の不自由な人たちが町内としてどのように支えあうのか今後の課題です。

編集者註
「津波でんでん」とは、「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自でんでんばらばらに一人で高台へ逃げろ」という意味です。

左から3人目が齋藤みや子さん

JLERRブログ
「ルーテルとなりびと」
<http://lutheran-tonaribi.blogspot.jp/>



第一章「R」はRでもリフォーマー・ルターの場合その一。歴史的に刻まれた「R」と「r」

日本ルーテル神学校 一九五〇年度再開に備えて、一年間、当時飯田橋の現ルーテルセンターにあつた日本基督教団・日本神学専門学校の委託生となつたわたしは、故石居正己牧師らと共に警宮キャンパスの故北森嘉蔵教授宅に下宿する身となつた。教室での講義はもとより、時たま食卓での会話を『神の痛みの神学』の名立たる神学者と交わしたのには、先立つ京都教会での故岸千年牧師の熱情溢れた教導に続いて、たいへんに恵まれたことであつた。とりわけ印象に残る北森先生の言葉がある。

『西欧史に刻まれ、日本史に欠ける二つのR—ルネサンスとリフォーメーション』を語られた時だつた(『マルティン・ルター』アテネ文庫第一五七、一九五一年に所収)。

なるほど日本史では「大化の改新」、「建武の中興」、「明治維新」の三大改革を知つてはいないが、英訳ではいづれも「Reform/Restoration」

イツ、ウォルムス牧会教区の司教フルカルドは述べている

「この書は、整形師とそして、医師」と呼ばれるもので、そのわけは、本書が身体への整形と魂への医業を十分その内容にもつていて、司祭たちに、たとい無教育の者であつても、按手をうけたもの未按手のもの、貧者や富者、老若男女、健康者や病者、そのいづれにかかわらず、すべての人たちがいかにすれば助けうるかを教えるものである。改めて考えさせられる。

「リフォーメーション」で記憶に甦ることもある。ちょうど五十年前、日本福音と東海福音の両教会合同が成立し、「教区制」が発足した。その創立総会直後の『うつて』特集・合同総会報告書に、前述の岸先生が、時の総会議長として「古きは過ぎ去つた」と題する巻頭文を寄せられた。その中で「今回の合同は、キリストにおいて新しい出発点に立つたことになる。したがつて、合同は、リフォーメーション(再形成である)と呼び、これはルターのリフォーメーション(宗教改革)に通じるものである」と述べられた。忘れ難い「R」であつた。

「愛の泉保育園」には、やさしいこどもに育つてほしい願いから、花のステンドグラスもあります。季節や場所を抜きにして花が並んでいる。寒緋桜、赤いサンダカン、白い月桃の花がある。5〜6歳児が月桃の歌を歌つてくれた。激しい戦場になつたあと、無残な焼土の中から、それでも生きていて白い花を咲かせた月桃の詩

野の花を見よ

ステンドグラス工房 アスカ 山崎種之(松本教会会員)

大輪のひまわりは園児たちの大好きな花。日本最西端の碑の建つ与那国島の岬には、岩間にゆりの花が咲いていた。

下には、日本のどこでも自生している、のいばら。荒地でも生き抜く強さを持ち、芳香のある白い小さな花を咲かせる。どくだみは臭気が強く、嫌われ者だが、十の薬効があるといわれる十字の白い花を持つ。これら

の花の詩は星野富弘詩集に見つけてほしい。沖繩では全く雪を見ることはないけれど、空には雪片雪の花がある。

マタイ福音書6章28〜29節 「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、袖きも

しない。しかし言つておく。栄華をきわめたソロモンでさえこの花の一つほどにも着飾つてはいなかつた。



春のティーンズ キャンプ報告

3月26(火)〜28日(木) 国立阿蘇青少年の家 キャンプ長 角本浩

「イエス・キリストについて知っていることはどんなことですか?」「あなたにとってイエス・キリストはどういう存在ですか?」94名のティーン

ズは申込書に記されたこの質問に答えてから、春キャンに参加しました。「いつも共にいてくれる方」奇跡を行つた「尊敬できる人」12月25日が誕生日「神の子、救い主」「神様と私の橋渡し」「守護霊みたい」などなど。皆さんならどんなふうにお答えになるでしょうか。

今回の春キャンは「イエス・キリストに出会う」をテーマとしました。普段の教会生活ではなかなか味わえない「からだで味わう経験」をいっぱいしました。足を洗い合つ、茨をかぶる、背中に十字架枕木を背負う...



ただ単に「尊敬できる人」ではなく、どのように私たちが救われたお方なのかを知るために。最終日に一人ずつ行つた感想は、キャンプ前の答えとは違う深みを感じられるものとなりました。

同じ信仰をもち、同じ讚美を歌い、同じ祈りをささげる同世代の仲間と過ごす。これも普段それぞれの教会では味わえないことです。帰路わたしが車に乗せていったキャンパーたちも阿蘇を離れるにつれ、「ああ、春キャンが終わる」と寂しう。中身の詰まった三日間を皆が堪能しました。この中高生たちがやがて、あなたの教会を支える重要な存在になります。祈つていてください。今後ともご支援ください。今回、私はキャンプ長でしたが、はつきり申し上げてほとんど何もしていません。座つて見守つていれはすべてが進んでいきます。準備の段階から最後の仕上げまで。それはスタッフの方々が実に素晴らしく組織的に動いておられるためです。今回は20回目を数えましたが、これまでの19回の間さまさまなご苦勞をなさりながら、ここまですべて来られたのだと実感しました。次世代への信仰継承のために、勞を惜しまず尽くしておられる方々がおられること、最後にありがとうございます。

久米芳也先生召天の報に想う

九州学院理事 田中善一（玉名教会）

三月の下旬、久米芳也先生が召天されたこと知らされました。沢山の思いがありますが、そのすべてを語ることは九州学院の職員としてきまされけれども、深



く脳裏にある一つを記します。

久米先生は広島教会の柏木信隆牧師のあとを受けて一九八七（昭和六二）年、理事長に就任され、十年後の一九九七（平成九）年に現長岡立一郎理事長へ引き継がれました。

久米先生は温厚でまじめ、しかも信念の方でした。これまで歴代の理事長は福岡、大阪、広島在住でした。理事長は学校法人の経営の最高責任者ですが、ボランティアでした。歴代の理事長は現場の責任者を信頼して委ねておられたのでしよう。

昔は年二回開催される予算理事会と決算理事会に來られ、そのほかは年数回來られるくらいでした。久米先生は熊本市の神水教会の牧師でしたのでお願いすればすぐに來てくれました。現場のことも見聞きされてよく判ってました。

九州学院の男女共学を決定し、理事会においてその必要性を真剣に説き、一回の理事会で通過させてしまいました。初めてこの提案を聞いた方はまさに青天の霹靂だったことでしょう。

同窓会の役員への説明と説得も精力的にされました。九州学院教職員の

中にも男女共学に反対する者もおりました。殊に在京の同窓生の反対運動は激しいものでした。西一郎院長と私は東京して説得に当たりました。

久米理事長はそのような中にあつても沈着冷静に九州学院の経営の最高責任者として女子生徒受入の施設改修計画など着々と進めて一九九一年（平成二）年創立八十周年を期して男女共学を実施したのでした。九州学院創立以来の一大変革でした。

今日の九州学院の基礎づくりをしたのは久米芳也先生なのです。

別れの挨拶

SLEY宣教師 マルツティ ポウツカ

47年前のある冬の夜に、こんなことがありました。

私の実家は二階建てで外はもう暗くなっていました。どうしてか、覚えていないのですけれども、私は小さい明りをもって、その二階の暗い部屋に行きました。そして、何か変な影を見て、怖くなって、駆け下りて、姉と母のところに泣きながら逃げこみました。そして、姉と母に慰められました。それから、姉がその部屋の中に何かあるか、調べに行きました。結局、何もあ

りませんでした。私が見たものは、私の影だったかもしれません。

私が怖がっていた時、母と姉は私を助けてくれました。でも、人間はいくら意志があつても、全てのことを助けることは出来ませぬ。では、イエスはどうか、お出来になりますか。私はイエスを信じて、イエスと共に歩んでいければ、暗い部屋でも死さえも怖がらなくていいのです。勝利者のイエスが、助けてくださるからです。そして、毎日、イエスは道であり、真理であり、命であるという教えを覚えましょう。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
皆さんの上に神様の豊かな祝福がありますように。
皆さんの上に神様の豊かな祝福がありますように。

公告

この度左記の行為を致しますので、宗教法第二三条の規定に基づき公告致します。

- 二〇一三年五月一日
- 宗教法人
- 日本福音ルーテル教会
- 代表役員 立山忠浩
- 信託利害関係人 各位

- 一 名古屋教会幼稚園舎無償譲渡
- 所在地 名古屋市中種区今池3丁目501番地2
- イ所有者 日本福音ルーテル教会
- 家屋番号 5001番の1
- 種類 幼稚園舎
- 構造 木造平屋建
- 床面積 133.22㎡
- 口所有者 名古屋教会
- 家屋番号 501番の4
- 種類 鉄筋コンクリート造スレート葺2階建
- 床面積 1階366.32㎡、2階135.55㎡

- 理由 名古屋幼稚園の学法人（編入）に伴う基本財産の一部として愛知ルーテル学院に無償譲渡する。
- 理由 名古屋教会土地無償貸与
- 所在地 名古屋市中種区今池3丁目
- 地目 境内地
- 地番 501番2
- 地積 1287㎡

- 理由 名古屋幼稚園の学法人（編入）のために、貸与期間を二〇一四年四月一日から二十年間と定め、愛知ルーテル学院に無償貸与する。

女子学生会館「文京カテリーナ」と小石川教会の耐震工事、進捗状況

小石川教会 牧師 徳野昌博

1月28日（月）に、耐震工事の起工式を小石川教会の礼拝堂で行い、その翌日から、工事は本格的に始まりました。教会部分の工事は2月10日の主日礼拝終了まで待つていただきました。最後の礼拝後、教会員と一緒に片付けや持ち出すものの分別をしました。大掃除同様、それなりに

たいへんでしたが、身軽になった感じがして、爽快でした。

工事は6月末に完了する予定です。教会部分は5月末まで立ち入り禁止です。その間、主日礼拝は、お隣り、と言つても一つの同じ建物の中にあるわけですが、日本福音ルーテル教会の収益事業の一つである、女子学生会館「文京カテリーナ」の食堂をお借りして行っています。都合15回です。

その間、カテリーナの食堂部分の工事は後回しになるわけで、便宜を図つてもらっています。

カテリーナの全面的なご理解と協力をいただき、主日礼拝が普段通り行われていることは、まことにありがたいことです。

工事内容としては、「ピタコラム」と言う、かすがい様の鉄骨による外壁の補強（一部は建物内部にもはめ込むようです）。それと、礼拝堂のように、柱が少なく、空間部分が広く、大きいところは、梁や柱に鉄骨を添え木のようにして補強したり、補強壁を新たに設置するというものです。そのため礼拝堂も集客室も牧



師執務室も狭くなるのですが、安全安心には代えられません。特に、カテリーナは150名からの女子学生さんをお預かりしているわけで、社会的責任を果たす点でも、耐震工事は不可避のことだ

と思います。「耐震工事に着手」ということで、この4月カテリーナは満室でスタートできました。2年ぶりのことです。1980年の開業年を除いて、その後は、ずーつと満室で年度をスタートしていたのですが、東日本大震災が発生した2011年、そして、その翌年2012年は満室にできませんでした。大震災の影響はもちろん、恒常的な少子化、不景気、それに加えて、同種施設の過当競争という逆風の中、カテリーナの職員さんたち

は、必死になって対策を講じておられたことを、私も、月に一度の「職員ミーティング」に出席させていたでいて、つぶさに見、聞き及んでいました。ですから、満室スタートの報告は、うれしいことでした。

教会は教会で、礼拝堂に比べると、手狭な食堂ですが、まさしく肩を寄せ合つての礼拝は、出席者同士の距離を縮め、なごやかな雰囲気を一層醸し出しています。日曜日ごとの「礼拝堂」設営撤収も、たいへんですが、一致協力して作業し、回

りませぬ。私が見たものは、私の影だったかもしれません。

私が怖がっていた時、母と姉は私を助けてくれました。でも、人間はいくら意志があつても、全てのことを助けることは出来ませぬ。では、イエスはどうか、お出来になりますか。私はイエスを信じて、イエスと共に歩んでいければ、暗い部屋でも死さえも怖がらなくていいのです。勝利者のイエスが、助けてくださるからです。そして、毎日、イエスは道であり、真理であり、命であるという教えを覚えましょう。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
皆さんの上に神様の豊かな祝福がありますように。
皆さんの上に神様の豊かな祝福がありますように。

理由 名古屋幼稚園の学法人（編入）に伴う基本財産の一部として愛知ルーテル学院に無償譲渡する。

- 理由 名古屋教会土地無償貸与
- 所在地 名古屋市中種区今池3丁目
- 地目 境内地
- 地番 501番2
- 地積 1287㎡
- 理由 名古屋幼稚園の学法人（編入）のために、貸与期間を二〇一四年四月一日から二十年間と定め、愛知ルーテル学院に無償貸与する。